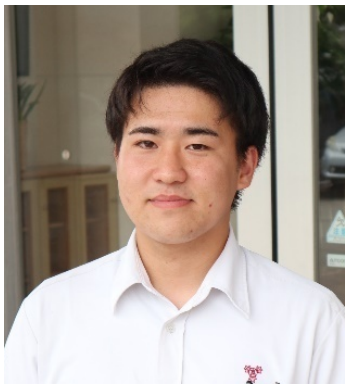
３０．下田　瑞葵氏（福岡県立東筑高等学校）



**「北九州市にある柔軟性を活かし、
多種多様な幸せの形を叶えられるまちに。」**

下田　瑞葵（しもだ　みずき）
岡垣町立岡垣東中学校卒業。
福岡県立東筑高等学校卒業。
タイ王国バンコク都との高校生交流事業参加。
第４回九州グローバルユースリーダーズサミット参加。

「環境都市のノウハウで先導するまちに」

歴史の授業で、北九州市の発展の背景には八幡製鉄所や、地元企業の存在がとても大きかったこと。また、経済発展の裏側で公害があり、それらを乗り越えてきたことを学びました。この「逆境を跳ね返す力」があることは北九州市の強みの一つであり、今後の北九州市の発展に欠かせない要素であると考えています。

小中学校の社会科見学で炭鉱や若松の風力発電所などを見てきました。環境に対する取組に積極的なまちだと感じています。環境モデル都市としてのノウハウは、北九州市のみでなく、他の地域や国にレクチャーし、先導していくまちになってほしいです。

「北九州市愛を受け継げる場があれば良い」

北九州市愛を持っている人が市内にたくさんいる一方で、高齢化の問題があり、政令指定都市の中でも高齢化率が高いのが現状です。伝統を受け継いで、「愛」を伝えていくためにも、高齢者との交流できる場や機会を増やしていければ良いのではないでしょうか。

「北九州市には多様なポテンシャルがある」

自分でも北九州市についてよく知らないなと思い、調べてみました。

生活面において、「次世代育成環境ランキング」で１位を獲得しています。また、小倉の祭りなど、子どもが伝統に触れられる機会があり、子育て世代にとって大きな魅力です。

また、交通面が充実していて買い物に行きやすい、遊びやすいというのも魅力だと思います。黒崎駅は、場所の面から考えても重要な拠点であり、小倉駅のみでなく黒崎駅周辺を発展させることで、福岡市との連携もしやすくなり、北九州市全体の発展にもつながると思います。

経済面でも、工業地帯がありますし、北九州市には人を呼び込むためのポテンシャルがあると思います。

「地理的特徴を活かしグローバルな発展を」

私は、福岡県内で仕事を通じてグローバル化を進めていきたいと思っています。アジアに近く、近隣諸国と連携がとりやすいのも大きなポテンシャルだと思っています。

高校２年生の 12 月まで英語が苦手でした。地域経済や SDGs に関心があり、タイの高校生と交流して、タイに実際に渡航してみました。同世代の海外の人と話す中で、私が持っていない価値観に触れることができ、その価値観を理解すれば、一緒になって将来の課題を解決できるのではないかと思い、それ以降、英語を学ぶことが楽しくなりました。

北九州市でも、グローバル化を促進する事業

を増やしていってほしいです。

「みんなが幸せになるための取組を」

今後みんなが幸せになるためには、脱炭素化や環境面に配慮した取組を進めていく必要があると思いますし、今後もっと成長していく分野だと考えています。

また、北九州市は高齢化率が高いため、高齢者に向けた講演会といった情報格差をなくすための事業を増やすことも必要だと思います。

「若者が北九州市をもっと知るように」

個人的には、北九州市について知らないことがまだまだ多いと感じました。北九州市に住んでいる友人にも聞いてみましたが、市の現状や取組について詳しく知っている友人は少なかったです。若い世代に、北九州市について伝える授業を増やし、まずは知ってもらうことが重要であると感じています。そして、今後その課題に対して、自分自身が先導して取り組んでいきたいという意識があります。

「北九州市にはのびしろがある」

周りには東京に出ていく人も多く居ますが、東京には興味がありません。完成されたまちだと感じています。アメリカやヨーロッパも発展し切っていると感じるため、アジアに関心があります。日本でも、九州や中国四国地方の方が伸びしろがあるのではないでしょうか。そういった地域の方が、やりがいがあります。福岡から九州全体を取り込み、西日本全体を発展させていきたいです。

「柔軟に対応でみんなが幸せなまちに」

北九州市には、社会変容に柔軟に対応して、市民が満足して住めるまちになってほしいです。

公害を乗り越え、環境モデル都市になった北九州市には柔軟性があると思います。昔に「できた」のだから、今も「できる」はずだと考えています。

また、高齢者や子育て世代を取り残さないことも重要です。多種多様な幸せの形がありますが、市民がそれぞれに満足できる形を作るべきであり、それを実現できるまちであってほしいです。